

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 29 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531170

研究課題名(和文)鑑賞教材としてのアイヌ語音楽劇創作と、その公演の教育的効果についての研究

研究課題名(英文)Creation of the operetta in Ainu as a teaching material for an appreciation of art and Research about the educational results of the performance.

研究代表者

杉江 光(SUGIE, Ko)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40271720

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：学校教育における鑑賞教材として、アイヌ語を用いたおもしろオペレッタ「シマフクロウの伝言」を製作し、北海道教育大学旭川キャンパス音楽分野と岩見沢キャンパスの学生が小学校および札幌市教育文化会館で公演を行った。この活動は、子どもたちにアイヌ文化を伝える鑑賞教育として、また、大学生の教員としての資質向上にとっても役立つものであった。

研究成果の概要(英文)：We produced the operetta “Shimafukurou no Dengon (Message from a Blakiston's fish-owl.)” as a teaching material for an appreciation of art, and gave a public performance in the elementary schools and the Sapporo Education and Culture Hall of Sapporo-city with our university students. These activities were very useful not only to hand down the culture of Ainu to children as an educational appreciation, but also to improve the quality of university students as teachers.

研究分野：声楽

キーワード：オペレッタ アイヌ語 鑑賞教育 教師としての資質向上

1. 研究開始当初の背景

北海道では生の音楽を鑑賞する機会の少ない小規模校などが多くあり、教員養成大学音楽科としてそれらの学校の子どもたちに生の音楽を提供してゆく任務があると認識している。子どもたちが生の音楽の鑑賞に際して抵抗なく導入できるようになるためには、視覚的にも話の内容としても楽しむことのできる音楽劇作品が理想であると考え。しかし、上演時間や規模の面において、小中学校で上演できる手ごろな作品がきわめて少ないのが現状である。そこで、子ども達に受け入れられ、しかも様々な条件において小中学校で上演可能な小さな劇作品を創出してゆく必要がある。子どもたちに鑑賞させるための創作音楽劇は、地元で伝わる素材などを扱うことによってより一層の興味を持たせることが期待でき、北海道においてアイヌの題材を扱うことは、地域・郷土の理解につながるとともに、多方面からの教育的効果が期待できる。特に、アイヌ語は現在ではほとんど使われなくなったが、北海道には日本の文化としてのアイヌ語が存在していることを認識することが大切であり、小中学校で鑑賞するアイヌ語の音楽劇の創作が必要であると考えに至った。

2. 研究の目的

アイヌ文化は、我が国の貴重な文化の一つである。特に北海道では、アイヌ文化の理解なくして子どもたちに正確な郷土理解を促すことはできない。しかし一方では、アイヌ民族の言語や音楽、風習などは次第に失われようとしている。そこで、郷土理解はもとよりアイヌ文化継承の一端を見据えながら、音楽鑑賞教材としてのアイヌの題材によるアイヌ語の音楽劇(あるいは語り物音楽)を創作することが本研究の目的の一つである。完成作品は、教員養成大学の学生達が地域の小中学校で公演することより、彼らにもアイ

ヌ文化の理解と同時にそのことを通じ子どもたちとの交流の場を体験させ、その教育的な成果を検証することが本研究の目的である。

3. 研究の方法

(1) 平成24年度

平成24年度は、小・中学校で公演するための観賞用音楽劇教材の創作が研究の中心となった。年度の前半は、音楽劇の題材探しと台本作成のための調査が中心となった。アイヌ語による音楽劇の内容として適当な台本となり得る題材を見いだす為に、旭川市立図書館、北海道立図書館などの文献をもとに調査した。さまざまなアイヌに伝わる物語を研究するうちに、北海道東部の町、白糖地方のアイヌ文化の伝承者である四宅ヤエを母に持つ四宅智子(したくともこ)氏の絵本「カラスとカケスの物語」に巡り会い、それを題材に台本を作成することとした。また、アイヌの題材を扱った音楽劇は、アイヌの伝承音楽を取り入れた作品であることが必要条件であると考えられるので、道内に残されているアイヌ伝統音楽の資料収集を行った。

「カラスとカケスの物語」でコタンコロカムイ(シマフクロウの神様)の長時間にわたる長い伝言をアイヌ語とし「シマフクロウの伝言」の台本を書き始めた。伝言部分はアイヌ語であるため、アイヌ語・アイヌ文化研究家の大田満氏にその台詞の作成を依頼した。そして「カラスとカケスの物語」を音楽劇台本として書き換えるため、粗筋や台詞についての推敲作業を行った。この作業は、作品自体の価値を決定する重要な部分であるので、慎重に時間をかけて進められた。

(2) 平成25年度

平成24年度に音楽劇用台本「シマフクロウの伝言」は概ね完成し、平成25年度から作曲の作業が行われることとなった。アイヌ

の昔話を音楽劇作品とするにあたり考慮されるべき点は、小・中学校の児童生徒そして先生方に見てもらふ為、子どもたちから大人まで受け入れやすい音楽でありながら、作品としての音楽的水準が高く保たれるものであること。アイヌ音楽を作品の中に取り入れるにあたり、原曲の雰囲気損なわないようにすること。また、アイヌの舞踏を盛り込むことなどとした。特に音楽に関する事柄は、アイヌの民譚話を台本とする作品としての特色を出す上で、大きな要素といえる。そのために、24年度に各地の図書館から収集したアイヌの音楽の資料や録音を参考とし、アイヌ音楽の伝統や美学をどのように盛り込んでいくかについて、作曲担当の共同研究者・二橋潤一の十分な話し合いが行われた。

3) 平成26年度

平成26年度は、出来上がった作品を小学校で上演するための制作期間と、上演の為の年度に当たる。作品は、平成26年度の初旬には完成する予定であったが、アイヌ語学者である大田満氏との台本の推敲などがあり3ヶ月ほどずれ込んだ。そのため、実際に、公演のための練習が始められたのは平成26年度10月の後期に入ってからのことであった。舞台制作のプランは基本的には学生によって進められ、音楽稽古のほか演出、衣装、小道具製作どの実施計画が立てられ、上富良野町立東中小学校での公演にむけて準備が進められた。

4. 研究成果

本研究の成果物であるオペレッタ「シマフクロウの伝言」は、台本を石田久大、作曲を二橋潤一によって完成された。その作品は、アイヌ語を用い、アイヌ音楽を挿入し、アイヌの舞踏を盛り込みながら、現代に生きる我々の大切な文化であるアイヌ文化を子どもたちや一般の聴衆にむけて発信できる素晴らしい舞台作品となった。

本研究にあたって特筆すべきは、この作品

に大きな内容的価値、文化的価値を与え、アイヌ文化を正しく伝えることを担保していただいた大田満氏の存在である。アイヌ語の台本制作のみならず作品全体を通して細かく熱心にご指導いただき、アイヌが人を招き入れる時の所作など舞台演出にも真実性と深みを与えていただいた。また、川村久恵氏にはアイヌ文化、舞踊、歌の抑揚や発声など、大学生たちに直接ご指導をいただいた。作品自身の質の高さおよび公演の成功は、大田氏ならびに川村氏のご協力なくしては得られなかったものと、ここに謝辞を申し上げたい。

作品の発表は、北海道教育大学旭川校の学生によって、平成27年3月2日(火)、上富良野町立東中小学校において児童生徒をはじめ、保護者や近隣の住民も集まって行われた。公演の後、小学生の感想から鑑賞教材としての適性、効果について検証を行った。

新作のオペレッタを公演することは、大変な動力と情熱が必要である。大学生たちは、子どもたちに質の高いオペレッタを鑑賞してもらう事の責任の重さを感じながら、衣装、大道具、小道具、演出等、本当に多くの時間を割いて真摯に取り組んだ。また、アイヌ語を子どもたちに伝えるために字幕スーパーを使い、また、実際にアイヌに伝わる座り歌や心臓破りの踊り(フッタレチュイ)などを近文アイヌ記念館の川村久恵氏から正確に学び子どもたちに伝えた。

この活動を通して、将来教員となる大学生のアイヌ文化に対する理解が深まったと同時に、学校現場と教員養成大学、そして地域の文化を伝承している方々との新しい関係の構築を模索する場となったと考える。

また、オペレッタ「シマフクロウの伝言」は、北海道教育大学岩見沢校の学生によっても札幌市教育文化会館小ホールにおいて平成27年3月17日(火)に公演された。旭川での公演がピアノ伴奏であったのと異なり、札幌での公演は作曲の二橋氏が小さなオーケストラ編成の編曲を加え行った。大変レ

ベルの高い音楽表現、演技、演出、衣装、舞台美術であったため、満員の聴衆から絶賛を得ることができた。

新作のオペレッタを行う事は、既にある作品を公演するのとは何倍も何十倍も労力を必要するものである。学生たちは、公演を成功させるために仲間と多くの時間を費やし、練習を積み上げ、演出に思考を凝らしながら過ごしてきた。そこでは、様々なトラブルに見舞われ、時には衝突し激論を交わすことも、人間関係がうまくいかなかった時もあった。しかし、「質の高い公演をしたい!」という共通の目標、「子どもたちに良いものを見せたい」という願いが彼らを突き動かし、見事に舞台を作り上げた。舞台づくりは、総合芸術を生み出すための協働作業である。彼らが今回経験し成し遂げたことは、彼らの教師としてまた演奏者としての資質を大いに高めたと実感している。

今回、子どもたちや一般の方々からたくさん「おもしろかった」「すごく感動した」「素晴らしい作品であり公演であった」という感想をいただいた。この作品が、教育界の鑑賞教育に役立ち、また、地域の文化の広がりにも寄与できるように今後も北海道から発信し続け、他府県や他の国々で公演されることを期待している。

5. 主な発表論文等

本研究は、論文として発表するものではなく、学校現場での鑑賞教育教材として地域に根ざしたオペレッタ作品を創作し、実際に公演を行うことである。発表は4.研究成果に記載した通りである。

〔その他〕

・研究の成果物として作成したもの

オペレッタ「シマフクロウの伝言」ピアノ伴奏スコア

平成27年3月2日(火)に上富良野町立

東中小学校で行われた公演のDVD

6. 研究組織

(1)研究代表者

杉江 光 (SUGIE, Ko)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：40271720

(2)研究分担者

石田 久大 (ISHIDA, Hisao)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：30193329

二橋 潤一 (NIHASHI, Junichi)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：70312428

(3)研究協力者

大田 満 (OOTA, Mitsuru)

川村 久恵 (KAWAMURA, Hisae)